

安芸市の秀峰 五位ヶ森

安芸平野からほぼ真北「ラクタのゴブ」と形容される優雅な山容は安芸市と香美市の境の緩線でひとまわりとみく。山名の由来は、戦国時代、安芸を治めた陽族安芸國虎にちなみ、刺我赤兄(左大臣 従五位 重五等の位と持っていた)にちなみとも伝わる。(親の墓が畑山(お)主佐の国において 五番目に位が高い、気高い山でもある。

昭和橋より山頂まで標高差約1,000m。ほとんどが人工林の中をひたすら登るが、伐開地からの眺望や明神からはゆるやかな天然林となる。山頂からは香美市の山々や南国平野が望める。

コースガイド

伐開地へ出ると登山道が「金切れる」。作業道と東に進み、伐開地と植林の境を登ると五位ヶ森へ至る尾根に出る。また、伐開地の中を北西へ横切った歩道の跡を通り、植林境を下ると東からの尾根と合流する。あせらず、慎重に見極めて道を見つけること。作業道とこの歩道とを間違わないように。

ガイドブックにある大瀬木馬道はわからなくないので注意。

参考文庫
○安芸の民話
○高知県の山と野鳥
○歩く

昭和橋から五位ヶ森
登り2~3時間
下り2~2時間30分
片道約3.5km

祝い谷のゆくら岩
祝い谷の2m崖から20mは下の川の真中、のこもりしけにお酒を飲み記すお堂あり。その昔、高目のお堂路が岩井川(祝い谷)へ迷い込み命をとおしたという。その岩には手の跡がくまに残り、眼病にご利益があるという。

旧発電所
昭和橋
更田山
元野田のりば

天狗が住んでいるという伝説が伝わっている。

シシ神の森を思わせるおぼろげなリードがあたりをくわいている

大晦日には小坊主とみまわれ安芸の各地へオナベシに飛び回っていた。

五位ヶ森では相馬野太鼓が鳴り響くことがあるという。

人工林の中は下から鹿

鹿の巣に

大岩の下で歩道がとぎれる

伐開地

作業道

標識あり

少しなだらかなり
こまなまで石垣の垣跡

休憩所標識

杉の枝が脇にみまわれ
急坂がうつく

大正12年、安芸水カ発祥地として築業開始。その後、四電が買収し、昭和48年まで発電していた。

五位ヶ森からこまなと湧き出るうまい水

堂面様

水場

登る前の水分補給

柚子畑

大イナウ

小川名

土佐シロ

檜谷山 国有林

シロクガ群生

五位ヶ森 1,185m

明神

人工林の中にこまながおり、異世界のような雰囲気が漂う鎮守の森。

作業道からも安芸市平野〜県東部の山並み、太平洋までよく見える。

登山道と作業道が異なる鞍部、尾根に出る。

「安芸の民話」には天狗にまつわる昔話が各地(穴内井口、妙見山、東山など)に伝わっている。その中でも、五位ヶ森に住むという天狗は、ステータスも能力も、とても高い。天狗が想像できる。

主)作業道と進むと道まわりになる。(正確へおろ)

畑山風景
伐開地東側止り
南には太平洋が広がって安芸平野一望

まるで遺跡のように無数の石を積み上げた段々畑の跡に、今はびっしりとヒキヤズキが植林されている。何世代にもわたって石を積み、土を耕してきた人々の営みの日々は、きっと静かで、静かなる幸わいなものであったことだろう。

五位ヶ森登山道

安芸市と香美市の境

山頂はこんな感じ、空が広く開ける。二等三角点

アセビガ繁茂

